

# 第 75 回実技セミナー in 東京

## 開催報告



開催日時：平成 30 年 11 月 23 日（祝）9 時半～13 時までの実質 3 時間半（受付 9 時～）

開催場所：ラックヘルスケア株式会社 東京オフィス

主催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会\*

共催：ラックヘルスケア株式会社

後援：株式会社クリニコ 日清オイリオグループ株式会社 渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場

<敬称略>

### 開催目的

- 包括的な食支援に関する知識や技術を得ることができる。
- ベッド上、車いすでの基本姿勢と五感を活用する食事介助方法が理解できる。
- 食べる力を引き出す、ベッドサイドスクリーニング評価の方法を理解することが出来る。
  - 基本的な食事介助技術を身につけ、自施設においての実施につなげることができる。

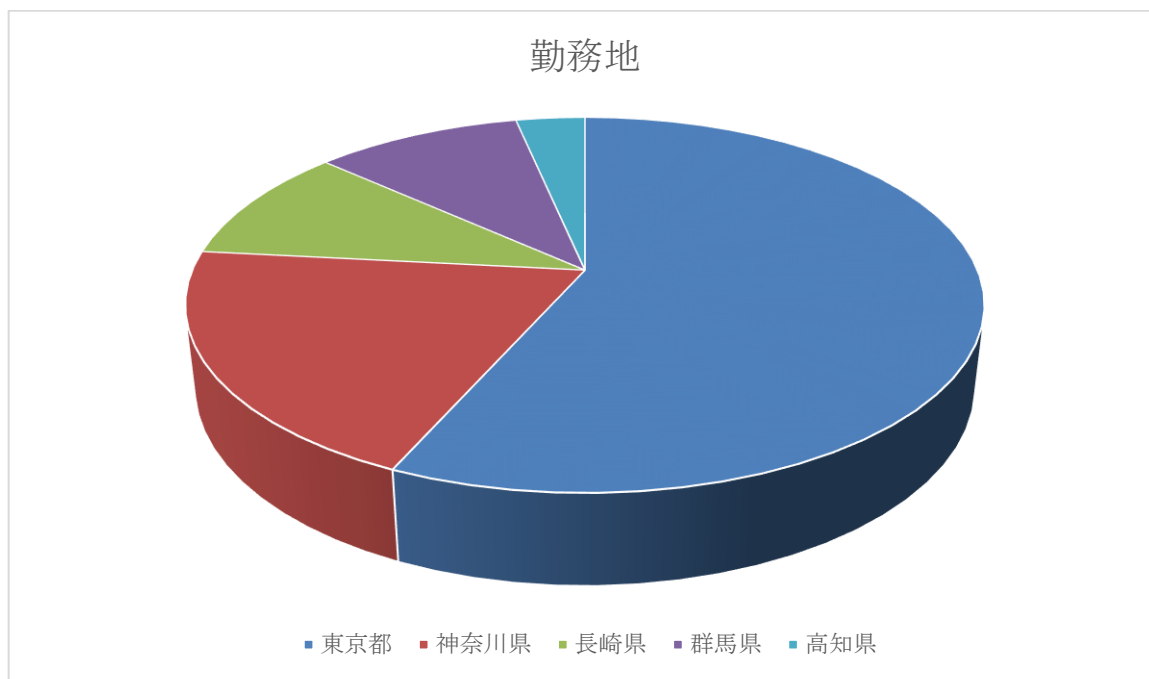
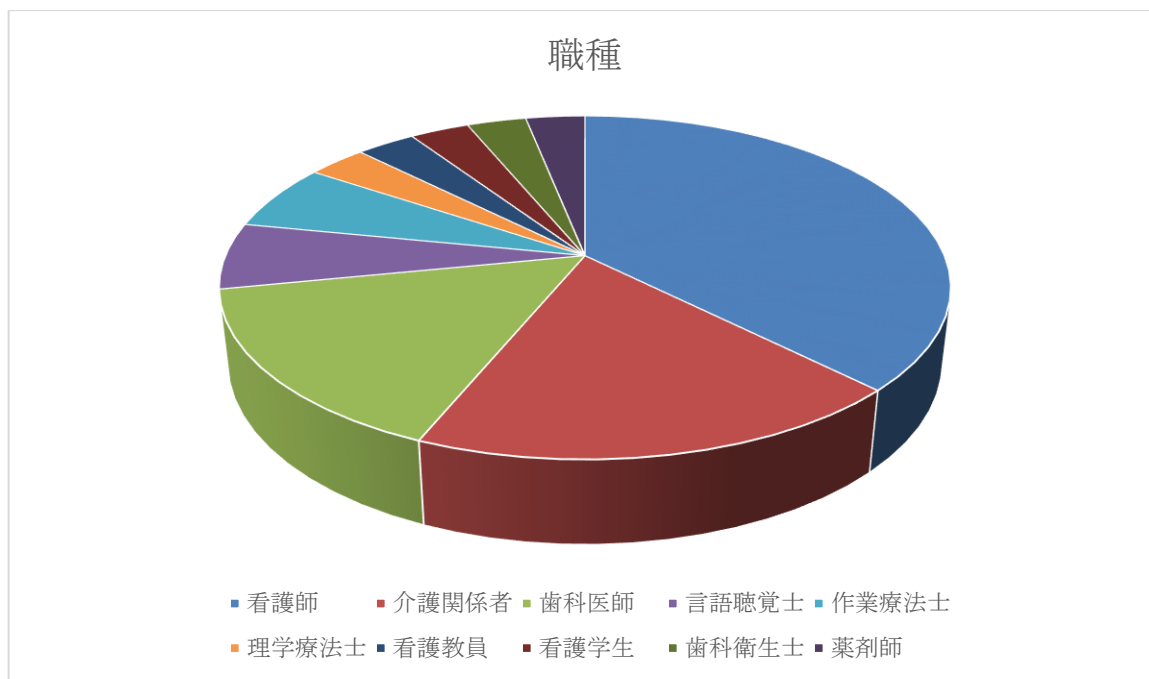
### KTSM 実技認定者（講師・アドバイザー）一覧

<敬称略>

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
砂山 明子	東京都立 駒込病院	看護師・管理栄養士 摂食・嚥下障害看護認定看護師 NST 専門療法士 KTSM 実技認定者
剣持 君代	公益社団法人 群馬県医師会 群馬リハビリテーション病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
佐藤 作喜子	JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	管理栄養士 KTSM 実技認定者
山下 ゆかり	医療法人社団 永研会 ちとせデンタルクリニック	歯科衛生士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者

## アンケート集計結果 (参加者 32 名 回収率 53%)

### Q1 職種と勤務先の都道府県



### Q2 参加前と参加後で考え方がどのように変化しましたか？

◆参加前はどのようにしていいかわからない部分があり、介入に戸惑うことがありました。今回の研修を受けて、どうしてそうになっていて、そういう介入をすればいいかが明確になったので、明日からの臨床に活かしたいと思います。

◆先の小山先生の授業（聖路加国際大学認定看護コース）では、ベッド・車椅子での実技がなかったのので、今日はポジショニングを学び実践することができました。シンクロさせる食事介助の方法を、もう

一度学ぶことができよかったです。

◆右利きだけど、左からのアプローチもしていけないといけないと考えました。スプーンの持ち方が相変わらず下手くそなのと、手を添えて介助時に自分のやりやすいようにコントロールしてしまう所を課題として行きたいです

◆ポディショニングの重要性を学んだ。また、いかに自分なりの嚥下リハをやっていたのか痛感した。

◆食事介助も口腔ケアもポジショニングが大切であると再認識いたしました。今までは頭ではわかっているつもりでしたが、つもりだけで、実践できるスキルは全く無かったと思い知りました。自信を持って提供できるスキルを身に付けたいと痛感しました。

◆他職種の力が必要だという考えがより一層強まった。

◆自分の手が患者さんの視界を妨げていることに気がつく事が出来たこと、スプーンの手操作が自分本位であったことがわかったことです。

◆前回参加したときと、見えてくるものが違いました。また、実践を積んでいくと必要なことが増えてくると思います。

◆まだまだ勉強不足であることが良くわかりました。

◆車いすで自力摂取する場合の姿勢について自分で座ってスプーンを持って動かしてみても肘の高さの重要性に気付いた。さらに、タオルの活用やスプーン運び方など介助する際にも参考になることが多くあった。

◆平常のセミナーよりも時間を割いてのポジショニングがありとてもわかりやすかった。また、フードテストや水のみテストは実際には行ったことがなかったのでテストをする機会があったらすんでやっていきたいです。

◆口から食べるということは人間の基本的な活動なのに、今まで食事介助に対する意識が薄かったように感じました。今回この研修を通して食事に対する関心がとても強くなりました。口から食べる、その当たり前のことを私たち医療者が阻害してはならない。そのためには知識と技術の向上が求められると思います。モチベーションがあがりました！また、看護師は患者の手にならなければならない、という言葉がとても響きました。食事介助一つにしても、長年続けられている活動にしても、目の前にいる患者さんのために私たちは何ができるのか、という姿勢を強く感じました。信念をもって続けていくことの大切さを学びました。

◆実習を経験して摂食介助のやり方で食べやすいかどうか分かった。自分で食べているのと介助で一一口を食べたのでは、食べるペースが違いそれだけでも味が変わる事を感じた。自分で食べている時は、口の中の物を嚥下する前に次に食べようとする物に視線が移りそのものをスプーンでとって口に運ぼうとするなどそれに近い介助が必要だと思った。

◆自分の技術に長年の癖があることを知り、それを克服できるようスキルアップしたいと思った。

基本的な考え方は変らないが、今後臨床でどう取り組んでいくか具体策を練ろうと考えている。

◆変化と言うよりは、熱心な方がたが若い年齢層から、大勢いられることを再確認できて、よかったと思っています。

◆食事をとる際の正しい姿勢など、改めて自分が行えているかどうか、振り返ることが出来ました。

◆改めて、口から食べる重要性を再確認いたしました。また、お食事の時の姿勢がとても大切で、正しい座位、ポジショニング、食事介助が最も重要だと思いました。

### Q3 セミナーで学んだことをどのように現場で活かしていきますか？

◆食事動作に直接介入する機会は少ないですが、早期退院につなげられるように安定した姿勢ができて、食事動作が楽にできているかを確認し、病棟看護師と一緒に介入していきたいと思っています。

◆13項目の評価を手稲に実践していないので、行います。食事介助のポジショニングとシンクロさせる介助方法を実践します。

◆食事場面での評価

◆正しいポディショニングを行いたい。また、書籍の細部まで目を通し、手技を学び生かしていきたい。

◆。いつまでも美味しく安全に食べていただけるように、ご本人のレベルを見極め、他の職種の方と協働して、取り組みたいと思います。

◆KT バランスチャートの考え方で、多角的にみられるように支援していきたいです。

- ◆明日から患者さんの手となれるよう今回の食事介助の基礎基本を活かしていきたいです。
- ◆ベッドの昇降すら、全然できていませんでした。食事の姿勢も再確認です。早速実践していきます
- ◆ひとつ、ひとつを大事に思い大切にしていきたいと思います。ひとりひとりの方の思いを受けとめていくことができたなら良いと思いました。
- ◆タオルの活用方法やスプーンをいかにスムーズに自然に運ぶことが大事かを学んだ。そして、自力摂取すると脳が活性化するなどの利点もかなりあるのでそれを生かせるようケアを進めていきたいと思いまテストに関しては当院の看護師同士でやって方法を伝授します。ポジショニングは PT.OT と更に復習して施設で食事している方々のポジショニングを見なおし行っていきたいと思います。
- ◆現在実習中なので、その担当の方や実習先の看護職員の方に伝えていきたいと思います。
- ◆食事の時の姿勢が非常に大切だと学んだが、その時間もリハビリなのだと言う事も学んだ。車椅子で治療にいらっしゃる患者さんには、治療の時間もリハビリを兼ねて治療をすれば、姿勢を正しくしてから治療をしていこうと思う。
- ◆ST と連携してスクリーニングを積極的にいき、病棟スタッフに広めていきたい。
- ◆この半年間県歯科医師会の事業に参加させていただき、認知症高齢者の食支援研修を受けさせていただきましたが、時間的に今回の実習内容が抜け落ちていましたので、理解、実習ができ感謝しております。多職種の方々との共有部分が広がることができればと思っています。
- ◆姿勢を、職員が支えることで整えていた方もいるので、クッションやタオルを使い、利用者、職員お互いに負担の少ない方法を見つけていきたいと思います。
- ◆早速、施設に戻りポジショニングを職員と一緒にいきました。そして、すぐに発信いたしました。看護師との共有も行いました。今後も多職種で取り組んでいきたいと思います。

#### Q4 その他、感想がございましたらご記入ください

- ◆臨床にすぐに活かせる研修でした。しかし、実技が全然できていないので、少しでも患者さんの QOL に貢献できるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。
- ◆次の機会も参加したいと思います。
- ◆遅れてすみませでした。何度かセミナーを受けましたが、中々難しいです。リクライニングチルトでの食介などを教えて下さい。
- ◆少人数のグループに分かれて、それぞれでバイザーから教えていただけたのはよかった。実技の時間が長いのも嬉しかった。今まで参加した勉強会の中で、1 番熱量を感じ、為になった。
- ◆デイサービスでの食事風景を見る中で、つつい歯科衛生士が食事介助に口出しするのは、気が引けて、見て見ぬ振りをしていました。本日山下先生の手技を見せていただき、少しでも近づけたらと思い、まずは目の前の方から、チャートに沿って色々な視点から評価し、経験を積んで、利用者さんから感想を教えていただき、スキルアップに繋がりたいと思いました。食べさせられる体験は色々な気づきがありました。本当にお世話になりました。ありがとうございました！
- ◆時間いっぱいまで色々指導してくださりありがとうございました。
- ◆本日はありがとうございました。摂食嚥下障害のメカニズムや食事介助方法など机上で学ぶ事が多く、自分の食事介助が正しいのか間違っているのか誰にも確認する事が出来ずにいました。今回のセミナーで私の食事介助は間違っていた事、正しい方法を演習で教えて頂けた事は大きな収穫でした。また参加したいと思えるセミナーでした
- ◆実習すると、不適切な介助がいかに、不快かよくわかります。手の使い方、声のかけ方、みているのとやってみるのは大違い。背抜きも、小山先生の手はスッと奥まで入っていききましたよね。チャレンジしていきます。ありがとうございました。
- ◆小山先生をはじめ、教えていただいた方々の熱い思いを強く感じました。
- ◆認知症の方がたの、病態、ケア、キューの見極めや服薬、副作用等も、考慮した視点も内容に加わると一層、これからの時代のニーズに答えられるのではないかと思います。ありがとうございました。
- ◆ちとせデンタルクリニック歯科衛生士 山下 ゆかり様にご指導いただきました。とても勉強になりました。ありがとうございました。

## ～セミナー風景～

### 【1グループ】



### 【2グループ】



### 【3グループ】



### 【4グループ】



## 【5グループ】



## 【集合写真】



みなさま、お疲れさまでした！

